

山室 昭憲 議員



Q 南阿蘇鉄道利用の学生に補助を

A 今後、前向きに検討



早朝列車で通学する学生

本村から南阿蘇鉄道

を利用して通学している高校生は約70名いる。将来を担う子供達、また、家族の負担を軽減する為、子育ての応援施策として、JR運賃額程度になるよう、子供達への投資と考え、助成する考えは。

教育長

村は中学生に対しては年間5万円を限度に補助を行っている。

子供、保護者の負担軽減のために考えていく時期が来たと思う。総合的に考え、助成の

在り方、また村の財政状況を鑑み最終決断をする。来年の予算にどの程度の補助が可能なか、真剣に前向きに検討したい。

企画観光課長 駅舎整備は、現在のところ駅舎のみの建設計画はない。当駅が阿蘇の玄関口であることを踏まえ、南阿蘇鉄道はもちろん高森町、阿蘇市、さらには阿蘇郡市の七市町村で構成している阿蘇地域デザインセンター

等を含め、総合的な拠点整備としての対策を講じていかなければならない。JR立野駅までの電化の延伸の見直しは、「JR豊肥線整備等促進期成会」でJR九州本社に要望。その際、沿線地域との協議の場を設け対応したいとの回答であった。今後とも地道に要望活動を続けたい。

山室議員

Q 立野駅舎整備・電化は

A 実現にむけて頑張る

立野駅は南阿蘇村への玄関口である。それにふさわしい駅舎、物産館、観光案内所を備えた道の駅的な駅舎の整備が必要だ。

また、JR立野駅までの電化の延伸は隣接町と力を合わせ、先頭に立つべきだと思うが、今後の見直しは。

村長

立野駅の整備は、必要だと思う。駅周辺の開発、整備等を専門的に調査して目に見える形で努力をしたい。

電化の延伸には、JRより、厳しい答えしか返ってこない。村の悲願であり、当然整備しなければならぬ。

村・県・国の問題として、県選出国會議員にもお願いをしている。大変厳しい状況ではあるが要望し実現に向けて頑張る。

住民福祉課長

阿蘇郡内の多くは各市町村内の病院と提携して、乳幼児医療外来のみ直接支払を行っている。直接支払制度のメリットは、窓口での一時負担がなくなる。デメリットとしては、

Q 乳幼児児童医療費の助成の支払制度について

A 現行の償還支払から直接支払への移行を検討



今村 六王 議員

今村議員

南阿蘇村乳幼児児童医療費の助成特別給付金支給条例は、償還支払制度である。

村の直接支払制度へ移行の検討をお願いしたい。

南阿蘇村の子育て支援事業として検討してもらいたい。

村長

今後検討していきたい。償還払いと直接支払のそれぞれメリット、デメリットがある。県下では、18市町村が直接支払に切り換えている中、村も検討していきたい。